

●ふるさと講座 自然系● コウモリ観察会から

7月23日(月)に今年で3回目となるコウモリ観察会を道指定文化財奥行臼駅通で開催しました。講師は道東のコウモリの調査研究をしている根室市歴史と自然の資料館の近藤憲久さんです。コウモリの生態についてのお話や駅通の裏にかすみ網を設置し夜になると餌を求めて飛び立つコウモリを捕獲した後、計測などを行いました。

捕獲されたのはホオヒゲコウモリで、直接翼にさわると間近に観察することが出来、大変好評でした。

以下、近藤さんのお話や資料を参考にコウモリについてご紹介いたします。



かすみ網にかかるコウモリ



計測などの作業

道東地方のコウモリ！

世界中では970種が生息し、哺乳類の20%を占めています。日本では35種、北海道で19種、道東で13種、町内で9種確認されています。

●どんな動物

体の大きな特徴は翼があることです。赤ちゃんのときはお乳を飲んで育つ私たちと同じ哺乳類で、唯一自由に空を飛ぶことができます。コウモリの翼は腕と手が変化したもので、「翼手」といいます。(図—人間にたとえています。)

●住んでいるところ

根室周辺では樹洞、廃屋、橋の下にいます。活動している季節は4月中旬から11月中旬で、それ以外は冬眠するそうです。

●コウモリの重さ

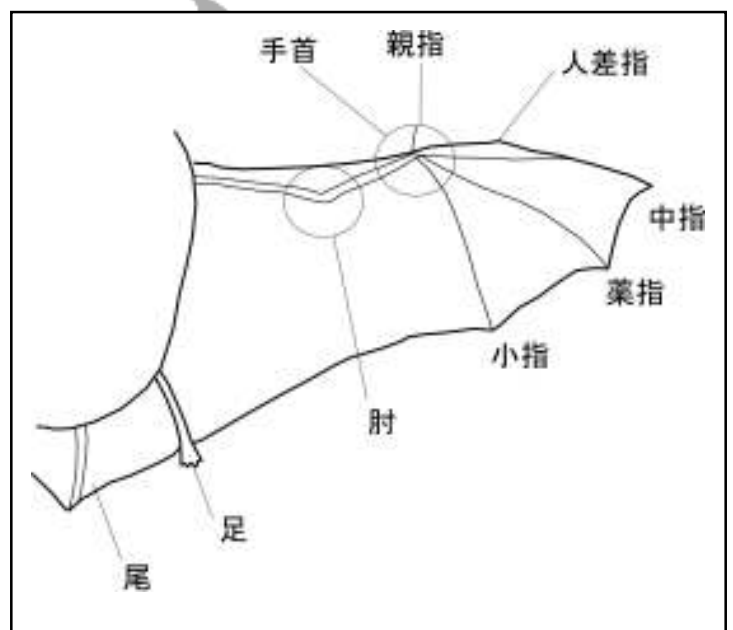
飛ぶために体を軽くしています。根室周辺にいるウサギコウモリでは5~13gで、1円玉5~13枚ぐらいです。

●何を食べている

口や鼻から超音波を出し障害物や餌となる昆虫を識別し、夜に飛ぶ昆虫(蛾、ユスリカ)を食べています。1頭が1日に食べる虫の量は、蚊くらいの大きさの昆虫でおよそ500匹で体重の半分くらいの重さになります。人間でいうと、お茶碗100杯以上になります。

●別海町で生息が確認されたコウモリ

モモジロコウモリ(多い)・トーベントンコウモリ(多い)カグヤコウモリ(多い)ホオヒゲコウモリ・ヒメホオヒゲコウモリ・ノレンコウモリキタクビワコウモリ(多い)ウサギコウモリ(多い)コテングコウモリ



ふるさと講座・歴史系のご案内

「野付通行屋の歴史的背景と発掘調査の成果」

平成15年から実施された野付通行屋跡遺跡の発掘調査で、寛政11年(1799)幕府により設置された野付通行屋の建物跡や当時使われていた様々な遺物が発見されました。

野付通行屋は、「加賀家文書」を書き残した加賀伝蔵が支配人として努め数々の業績を残した場所であり、古くからこの地方に伝わる「幻の町キラク」の伝説が残る場所でもあります。

文献史料と現地遺構が残る道内でも数少ない貴重な遺跡であり、その歴史的背景と発掘調査の成果をご紹介します。今から約200年前のこの地で何があったのでしょうか？

●第1回目(お話と特別展の展示解説)

日時 8月26日(日)
午前10時～12時
場所 別海町郷土資料館
講師 別海町郷土資料館 主任 石渡一人
日程 10:00～11:30 お話
11:30～12:00 特別展の展示解説
(入館料は無料になります)

参加申込み先

郷土資料館へ電話・FAX・メール
(裏面に記載しています)のいずれかにてお名前・電話番号をお知らせください。

申し込み受付期間

平成19年8月24日(金)まで



●第2回目は、江戸時代の遺跡を見学します。

日時 9月30日(日)
午前9時～12時
場所 野付半島
(集合・解散 野付半島ネイチャーセンター)
日程 9:00～12:00
野付通行屋跡遺跡
野付番屋跡遺跡見学
その他 5キロくらい歩きます。

好評開催中

第5回特別展「江戸時代のノツケを探る」

～野付通行屋跡遺跡発掘調査から～

期間 平成19年7月2日(月)

～9月28日(金)

場所 別海町郷土資料館

附属施設 加賀家文書館



8月

郷土資料館のお知らせ

- 休館日
4日・5日・13日
18日・19日・27日
- 開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料
一般個人 300円
一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.97

発行日 平成19年8月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 コウモリと言うと不気味で気持ち悪い動物というイメージですが、観察したその姿はとても可愛らしいものでした。かすみ網にかかる瞬間は大人も子どもも大興奮。このように獲物がかかる瞬間、魚釣りもそうですが、血がさわぐ、これも古来から続く狩猟採集民の証しかと思いました。自分だけ？(石渡)